

学校の概要

本校は、沖縄本島南部に位置し、創立145年(令和7年現在)を迎える歴史のある学校である。

校区は、太平洋戦争の終えんの地「摩文仁」、ジョン万次郎が上陸した海岸がある「大度」、本校が位置する戸数の多い「米須」、「ひめゆりの塔」が建立されている「伊原」、そして「さつきの城」から成る。

一次産業は農業が主で、葉野菜、菊、さとうきび、葉タバコ、ミニトマト等を栽培している。

校舎の北側には12～16世紀に造られた「米須ぐすく」の森がある。その森のすそ野を抜けるように遊歩道・マラソンコースが設置されていて、昭和54年から体力づくりとして校内マラソンに活用されている。

令和2年に完成した校舎からは、青々とした太平洋が眺望でき、季節によりクジラの潮吹きをみることができる。運動場には、デイゴやガジュマルの巨木があり、運動会は、保護者の見物するテントを張る必要がないほど木陰ができる環境である。

環境緑化にも力を入れており環境緑化コンクールで特選を3年連続受賞し、模範指定校として表彰を受けている。令和2年度は人権の花運動に大度分校と一緒に取り組んだ。

緑の少年団活動、ボランティア活動等にも取り組んでおり、10年以上前から、校区内にある知的障害者施設との交流学习も継続して取り組んでいる。また、校区には太平洋戦争終えんの地として激戦を物語る「各県の慰霊の塔」が建立されており、平和について考える教育資源が多く、反戦平和を願う「平和学習」も総合的な学習の中で取り組んでいる。

地域の特性としてはスポーツに対する関心が高く、運動会、陸上競技大会、マラソン大会への協力が顕著に表れている。また、スポーツ少年団の「三和FC」や昭和47年結成の少年野球チーム「米須オリオンズ」は、児童の健全育成と体力作りに大いに貢献している。

児童数は、毎年多少の増減はあるものの140名前後であり、各学年1学級ずつの小規模校である。児童は「教師と児童、児童間のふれあう機会」に恵まれ、明るく素直で勤労意欲のある子どもたちである。

